

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772301467		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム 阿倍野 (3階)		
所在地	大阪市阿倍野区播磨町1-20-3		
自己評価作成日	平成22年4月15日	評価結果市町村受理日	平成22年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2772301467&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・フロア内はバリアフリーとなっており、廊下も広くとっているため車椅子の方でも移動しやすくなっている。 ・アイランドキッチンになっているため入居者様から炊事の様子が見えやすく、十分な広さもあるため調理や片付けなども参加しやすい。 ・リビングを中心に居室が周りにあるため入居者様の見守りがしやすい。 ・浴室には機械浴が設置されているためADLが低下した方でも入浴が容易である。 ・屋上にはミニキッチンとトイレが完備されている。広さも十分にあるため様々な行事を行うことが出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは、開放感がある広いフロアとアイランドキッチンを中心に居室があり、皆が集まりやすく、安心してゆっくりと自由に過ごせる空間になっています。アイランドキッチンは食事作りが見えることもあり、利用者が進んでキッチンに立ち、職員と一緒に楽しく食事作りをはじめ、片付けや皿洗いも行いながら、自立に向けて支援されています。広い屋上ではバーベキューができる場所やテーブル、ベンチ椅子があり、利用者は日々外気浴や散歩、行事等に多く活用を享受されています。職員は「のんびりと気持ち安らぐあしたしん家」をモットーとして作り上げ、我が家だったら、自分だったら、との思いで管理者と職員は利用者一人ひとりのケアを大切に理念に沿った支援に取り組まれているホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「のんびりと気持ち安らぐあかしん家」をモットーに 日々の介護を実践している。	開設時からの理念や方針である「地域に親しまれる開放された施設づくり」を基に職員間で話し合い「のんびりと気持ちやすらぐあかしん家」をモットーとして作られ「我が家だったら」、「自分だったら」と置き換え、利用者一人ひとりの日々のケアを振り返りながら、理念の実践に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には挨拶程度であるが年に数回近隣の幼稚園や保育所からの訪問がある。	他のデイサービス事業所への通いにホームの前を通られた際や散歩時等に顔なじみになった方と挨拶を交わしています。また、2, 3ヶ所の近隣の幼稚園児や保育園児が来訪もあり交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に対しては活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	取組状況等の報告はしている。	運営推進会議は利用者、家族、阪南地域ネットワーク委員会、地域包括支援センター職員、事務長、管理者をメンバーとして2~5ヶ月の不定期に開催しています。行事、現況を報告し、意見交換をサービスの向上に繋げています。	地域の関わりを深めるためにも、自治会長や民生委員等に声をかけられてはいかでしょうか。認知症についての講演会や行事と兼ねて行う等工夫され、会議を2ヶ月に1回開催される事を期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当との連携は出来ていない。	現在は行政への行き来は少ないですが、介護保険の更新や事故報告書等を直接持って行っています。今後阿倍野区連絡会をつくる検討をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な行為を理解できていないスタッフもいるため今後正しく理解していく必要があるが、身体拘束はしていない。	身体拘束禁止マニュアルを常時見る事ができるようにしています。具体的な内容を職員が確認してくることもあります。5月に職員へ周知徹底に向けて研修をする予定です。エレベーターはテンキーで防犯上ロックをかけていますが、玄関、ユニット入り口の鍵はかけておらず、利用者の行動制限のない生活ができるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はないが虐待などはない。		

グループホーム 阿倍野 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見BOXを設置している。また、気軽に何でも話してもらえるような雰囲気作りを心掛けている。	年2回、家族会が開催されています。家族の面会時の際や利用者とのコミュニケーションの中から意見を聞くように努め、運営推進会議や職員会議、申し送り等で話し合いケアや運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行っている。	月1回の職員会議の話し合いや現場の中でのコミュニケーションから意見や要望等を吸い上げています。今年度から人事考課制度を取り入れ、個々の目標を持ち取り組むことを支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションが上がるような条件を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は毎月あるが、外部にはなかなか行けておらず、個々に任せていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はあまりない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションをとることで信頼関係を築いていけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様同様、十分にコミュニケーションを図り、関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活共同者としての意識を持ち、介護するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも話し合える関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な方には手紙やはがき等で交流が持てるように支援している。	利用者の知人や友人が面会に来られたり、年賀状や手紙のやり取りができるよう支援をしています。また、利用者が経営されていた会社へ行ったり、以前からデイサービス通われていた利用者が入居後も週1回継続されており送迎の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取りづらい場合は職員が間に入る等状況に応じて配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が断ち切れないよう声掛けは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、要望を聞き、困難な場合も本人本位であるように検討している。	利用者一人ひとりを理解するために、言動からできることできないことの把握に努め、会話の中から利用者の意向を汲み取っています。思いを伝えることが困難な利用者には表情を観たり利用者の立場に立って考え、把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類や日常の会話・家族様からの情報等、職員間で共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状況・精神状態など把握できるよう常に観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度、ケアカンファレンスを行い、作成している。	アセスメントを基に、利用者や家族の意向、整骨医やかかりつけ医からの情報も加味し、職員会議で話し合い介護計画を作成しています。3ヶ月に1回の介護計画の更新時には、職員全員が個々の利用者について記入する気づきシートを用いて、利用者の変化を捉えています。状態に変化があれば、その都度現状に即した見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録以外に申し送りノート・気づきシートなどを活用することによって情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応をしていると思うが多機能化については分からない。		

グループホーム 阿倍野 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な生活ができるような支援はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望・疾病にあったかかりつけ医を作り、都度連絡をとれるよう体制作りをしている。	入居時に利用者一人ひとりのかかりつけ医の希望を聞いています。状況に合ったかかりつけ医を選び、個々に応じて往診や受診の支援を行い、適切な医療を受けられるように各かかりつけ医との関係も築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるため、日常の健康管理など気軽に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院に入院された場合は担当者から都度連絡がくるような体制は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度看取り1件あり。かかりつけ医と家族様・事業所で話し合い終末期を過ごしていただいた。	看取り指針として文章化していませんが、重度化した場合には、家族や医師、看護師、職員で話し合いを繰り返しながら方針を決めて取り組んでいます。これまでも看取りの経験もあり、今後も前向きに取り組んでいくためにも、看取り指針の作成を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが勉強会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けていない。	ホーム独自で年2回、昼間を想定し自主避難訓練を行っています。消防署や近隣の協力が得られるには至っていませんが、近隣にある同法人とは協力体制ができています。	消防署に協力やアドバイスを頂き、夜間を想定した避難訓練を実施されることが期待されます。また、運営推進会議等で地域との連携について話し合われてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本としているが状況に応じて対応。 プライバシーを損ねないような対応を心掛けている。	利用者の人格を尊重し敬語での会話を基本とし、個々の利用者に合わせた対応をしています。言葉遣いが乱れたときには、その都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方については聞き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	努力はしているが入浴日や買い物などは予め決まった日になっている。一日の過ごし方は入居者様のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理・美容院に行くようにしている。季節に合った衣服が着られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には準備や片付けを一緒に行い、食事と共にすることによって会話を楽しめる環境を作っている。	アイランドキッチンを活かして、できる利用者が率先して食事の準備や片付け、洗い物等、職員と会話をしながら一緒に行っています。職員は食事でも声かけや介助をしながら利用者と食事をされ、利用者から笑顔がこぼれる楽しい時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に応じて食べる量の調節を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	細かいところまで行きとどかない方には職員がチェックをしている。		

グループホーム 阿倍野 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄して頂けるよう、排泄パターンを確認したり、声掛けにてトイレへの誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを知り、時間を配慮しながら、トイレ誘導をしています。おむつを替える回数を減らし、自立支援となるように取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、主治医の指導の元、下剤の調節を行っている。また日頃から水分を多くとってもらったり腹部のマッサージを行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日・時間帯は決まっているが、順番やタイミングは本人の希望に合わせている。	利用者の希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴を楽しめる支援をしています。ゆず湯等の入浴剤で楽しんだり、重度化した場合でも入浴できるよう機械浴を設置し、個々に合った入浴支援となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態により居室で休んでいただいたり、昼寝をしていただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認し、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いやレクリエーションへの参加、外出(散歩など)の機会は設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望で外出するのは出来ていない。家族様が外出の援助をして下さっている。	日々の散歩で公園に出かけたり、季節の外出でお花見に出かけたりしています。また、屋上の広場でゆっくりと外気浴や散歩をしたり、バーベキュー等の行事で楽しく過ごせる支援をしています。家族の協力を得て定期的に外出している方もいます。	

グループホーム 阿倍野 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かっている。 個人で少額の現金を持っている方もいるが使う機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて携帯電話を持って頂いたり、手紙やはがきのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるような飾り付けをしている。 また心地よく過ごせるように室温や湿度にも気をつけている。	共用空間はは広く開放感があり、利用者の季節の作品が飾られています。居室前のベンチ椅子で休憩したり、居心地の良いソファは利用者のお気に入りの居場所となっています。フロアの中心にアイランドキッチンがあり、リビングを囲むように居室が配され、集まりやすく利用者が直接、料理を見たり、匂いを感じ、一緒に食事作りできる場所になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室前にはベンチがあり、リビングにはテーブル席の他にソファがあり、思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や写真などを置いて頂いている。	居室には使い慣れた家具や仏壇、写真、人形など個々に大切にされたものが置かれ、利用者の居心地の良い居場所作りになるように支援しています。洋室と和室の両方があり、今までの生活に合わせることができ、畳に布団を敷いて休んでいる方もおられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており必要な個所には手摺がついている。		